

# 名古屋空港飛行研究拠点

名古屋空港飛行研究拠点は、県営名古屋空港に隣接した、高速・高高度の飛行実証を可能とする実験用航空機「飛翔」を用いた研究開発の拠点であり、日本の飛行実験研究の中核を担う施設です。

3機収容可能な格納庫や飛行実験をリアルタイムモニターできる飛行実験統制室、各種機材の地上試験が行える試験準備室といった飛行実験研究に適した環境が整備されています。

また、愛知県運営の産学行政連携推進コーナー（愛知県飛行研究センター）が隣接しており、愛知県との連携協力協定に基づいた産学行政連携による中小企業への技術支援、異分野間の研究交流の推進も行っています。



県営名古屋空港全景



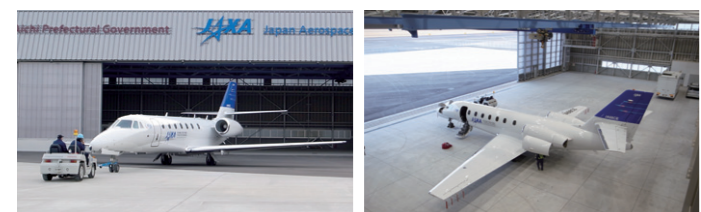
名古屋空港飛行研究拠点外観



グラスウォールを採用した実験用航空機格納庫



飛行試験をモニターできる飛行実験統制室



格納庫へ移動中の「飛翔」



格納庫で整備中の「飛翔」

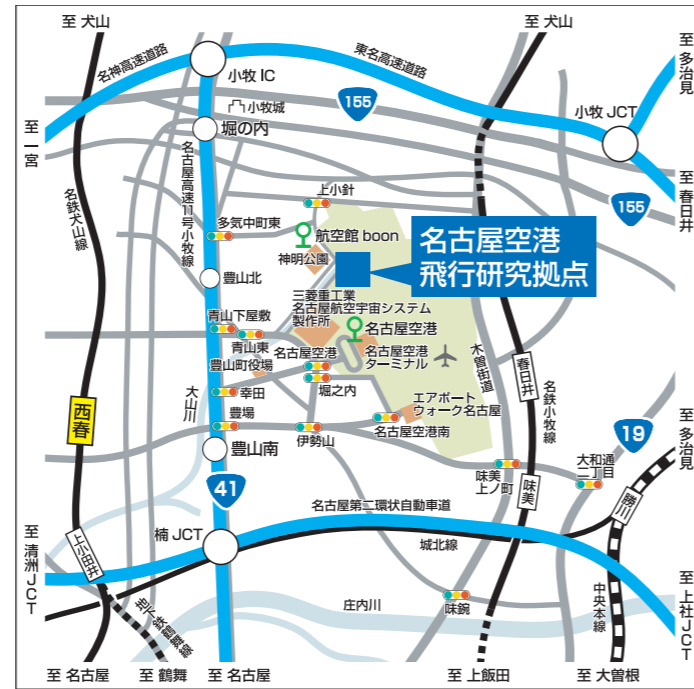
## 概要

【開設】平成23年4月  
【延床面積】約2600㎡

### 【主な施設・設備】

- 実験用航空機格納庫(3機収容可)
- 飛行実験統制室
- 試験準備室
- 共同研究室
- 飛行計画室
- 産学行政連携推進コーナー(愛知県運営)

## 所在地



### 交通機関のご案内

- 電車
  - 名鉄西春駅から名鉄バス「名古屋空港行き」名古屋空港下車、徒歩約25分
- バス
  - 名古屋駅からあおい交通「名古屋空港直行バス」名古屋空港下車、徒歩約25分
  - 名古屋栄からとよまタウンバス南ルート「航空館boon行き」航空館boon下車、徒歩約5分
- 車
  - (名古屋方面から) 名古屋高速道路11号小牧線を利用、豊山南出口で降り、多気中町東交差点を東方面へ約3分
  - (小牧方面から) 名古屋高速道路11号線小牧線を利用、堀の内出口で降り、多気中町東交差点を東方面へ約3分

### 名古屋空港飛行研究拠点

〒480-0201  
愛知県西春日井郡豊山町大字青山字乗房4520-4  
Tel. 0568-39-3515 Fax. 0568-28-0820  
<http://www.jaxa.jp/about/centers/nagoya/>



### 広報部

〒101-8008 東京都千代田区神田駿河台4-6御茶ノ水ソラシティ  
Tel. 03-5289-3650 Fax. 03-3258-5051  
JAXAウェブサイト <http://www.jaxa.jp/>



リサイクル適性(A)  
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



VEGETABLE OIL INK

JSF1403



## 名古屋空港飛行研究拠点



# 新しい価値を 人へ、国へ、この星へ

現在、宇宙開発・宇宙利用を取り巻く環境が大きく変化するなかで、JAXAにも宇宙科学などのフロンティアに加え、安全保障・防災及び産業振興なども含めた今までにない重要な役割が期待されています。私たちは、従来の技術開発と実証を中心とした取り組みを発展させ、企業・大学などの連携を通じて宇宙航空産業の裾野を拡げるとともに、社会的・産業的価値の創出によって安全で豊かな社会の実現に貢献します。ダイナミックに変化する社会の要請に技術で応え、新しい時代を切り拓くことが、私たちの使命です。

## JAXA 宇宙航空研究開発機構の活動

人工衛星による宇宙利用	地球環境観測・災害監視への取り組みや通信、測位技術の発展により豊かな暮らしを実現します。	
ロケットなど輸送システムの開発	日本が培ってきたロケット技術を発展させ、技術基盤の維持とさらなる高度化・低コストを図り宇宙開発の発展に応えます。	
宇宙科学の研究	宇宙の起源と進化、生命誕生の謎に挑みます。宇宙環境での実験と先端的な工学研究を行い、研究成果を通じて人類の未来を拓きます。	
宇宙環境の利用	「きぼう」日本実験棟や宇宙ステーション補給機「こうとり」を安全かつ着実に運用し、国際社会に貢献します。	
航空技術の研究	「環境」と「安全」を中心とした研究開発を進め、日本の航空産業の成長と安心できる社会の実現に貢献します。	
基礎技術基盤の研究	宇宙航空分野の先端・基盤技術を向上させ、日本の産業競争力の強化に貢献します。	

## 宇宙航空研究開発機構

# 実験用航空機を用いた研究開発を通じ、航空産業の発展に貢献します。

## 我が国の航空技術を世界トップレベルへ先導する実験用航空機「飛翔」

名古屋空港飛行研究拠点では、実験用航空機「飛翔」を用いて、これまでJAXAで培ってきた航空機開発の先端技術の飛行実証を行うとともに、搭載機器や装備品の飛行実証、新技術の飛行試験手法や基準等に対する技術提案や知見の提供等を行っていきます。



飛行試験中の「飛翔」



格納庫で整備中の「飛翔」

## 中部地区から世界へ ～外部機関との連携～

JAXAは新たに中部地区を拠点に加え、関係省庁、地方行政、産業界、大学等と連携・協力しながら、世界トップレベルの航空技術の研究開発を目指します。

国内でも特に中部地区は、航空機産業の集積地であり、航空宇宙産業振興に向けた活動が活発な地域です。また、この地域は「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区」として国の総合特区(国際戦略総合特区)に指定されており、今後ますますの発展が期待されています。



## 実験用航空機「飛翔」の役割・特徴

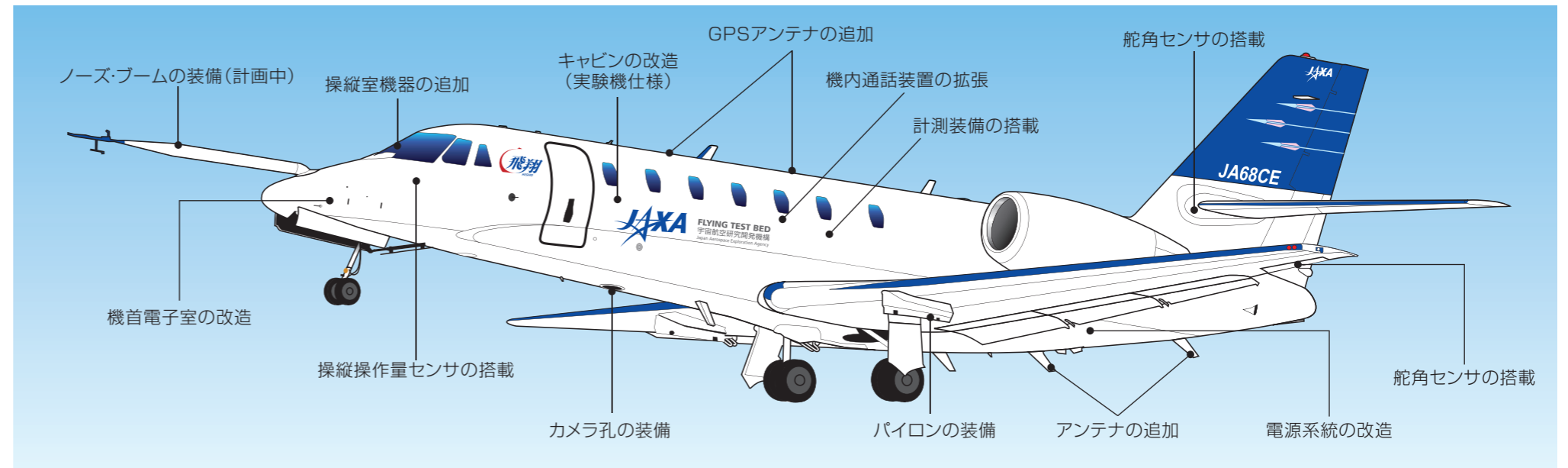
### 航空分野での役割

- **航空機高性能化技術の飛行実証**  
新技術に対する飛行試験手法の事前確立  
航空機開発のための飛行試験技術の研究開発
- **先進搭載機器の飛行実証**  
電子機器等の民間機への採用を提案する際に必須となる飛行実証
- **静粛超音速機技術の飛行実証**  
技術試験機搭載機器の機能確認等
- **次世代運航システム(DREAMS)の飛行実証**  
高精度航法装置の機能確認等

### 宇宙分野での役割

- **衛星搭載観測機器の飛行実証**  
衛星搭載機器の事前機能実証等
- **衛星同期観測**  
衛星と連携した詳細情報の収集等
- **ロケット追跡管制システムの飛行実証**  
ロケット搭載機器を搭載し、地上との電波リンクを確認
- **ロケット／大気球打ち上げ支援**  
ロケット打ち上げ前の気象観測等

### 特徴



「飛翔」は、社会からのニーズに対応する研究や将来航空輸送のブレークスルーとなる先端研究といった航空分野での役割をはじめとし、衛星搭載観測機器及びロケット搭載機器の飛行実証といった宇宙分野まで、幅広い分野に貢献します。

「飛翔」には、将来予測される様々な飛行実証に備えて速度、高度、機体姿勢、機体位置、各舵面やエンジンの作動状況などを高精度で計測できる各種センサとデータ収集装置が搭載されています。さらに、データ通信装置が搭載されるほか、キャビン床面には下方を撮影可能な直径30cmのカメラ孔が設けられています。左右主翼の下面には懸架装置(パイロン)を装備することができ、計測ポッドなどの装着に備えています。